

情報教育の実践

守谷市立松前台小学校

1 情報スキルに関する取組

(1) パソコンを活用した情報スキルの習得

「スタディノート」や「ジャストスマイル」といったソフトを利用して、基本的な情報スキルを確実に身に付けるよう、各学年で計画的に学習を進めてきた。特に6年生では、今まで積み上げてきたスキルを総合的に活用することを意識して学習を行った。文字を入力すること、画像を加工して分かりやすい文書を作ること、作った文書を掲示板を通して友達と意見交流すること、などの実践を通して、将来的に子どもたちが利用する可能性が高い場面や活用例を示すことができた。

(2) タブレットパソコンを活用した情報スキルの習得

主に総合的な学習の時間に、情報検索のためにタブレットパソコンを活用した。持ち運びができるという利点を生かして、教室で活用することが多かった。児童一人にタブレットパソコンが一台の環境で活用した時には、一人一人がパソコンを使う時間が確保され、今までに比べて確実にスキルを身に付けることができた。子どもたちがスキルを習得する速さにも違いが見られた。

また、総合的な学習の時間以外の教科でも、学習の理解を深めるための手だてとして、タブレットパソコンを活用した授業を積極的に行った。つまづきが予想される課題の時には、ヒントを示す手段として活用するなど、効果的な活用方法を吟味して利用することができた。

2 情報モラルに関する取組

携帯電話やスマートフォンを利用する児童が増え、SNSを活用したトラブルが増えてきている。児童がスマートフォンの利用をきっかけとして被害者になるだけではなく、加害者になるということも懸念されている。児童への実態調査からも、実際に「LINE」などを通して友達とコミュニケーションをとっている児童は多くいることが分かった。そこで、スマートフォンの利用にともなう被害を疑似体験することができる教材「スマホにひそむ危険（疑似体験アプリ）」を活用して、被害がどのような仕組みで起きてしまうのか、そしてどのような結果になってしまうのか、ということを学習した。SNSの安全な利用方法やネットケットについて理解を深めることができた。

3 学校独自の取組

(1) 教員研修 タブレットパソコン

タブレットパソコンの導入に伴い、タブレットパソコンの使い方の研修を行った。具体的な使用例を示すことによって、パソコン室のPCとタブレットパソコンの特徴を生かした授業実践が積極的に行われるよう共通理解を図った。

(2) 保護者対象研修

P T A 授業参観の時を活用して、「少年事件の増加と子どもの携帯電話（スマホ）、ネットとの関係」について講師の先生をお招きして講演会を実施した。子どもに携帯電話を持たせる前に親が知っておきたいこと、契約するに際して親から子へ「我が家のルール」として言っておくと良いことなどについて、理解を深めることができた。たくさんの保護者の参加があり、親子で考えるきっかけ作りになった。

4 成果と課題

「守谷市小中一貫情報教育年間指導計画」に基づいて、情報スキルや情報モラルの学習を進めることができた。6年間積み上げた学習が中学校に進学して生かされるよう、一つ一つのスキルを確実に身に付けることができた。今後は、多様なICT機器の中から一番効果的な方法を選択する力を身に付けることが必要であり、今後も継続した研修の機会が必要である。また、ICT機器を利用することが目的ではなく、児童の学習理解の手だてとなるよう研修の内容や質を向上させていきたい。